明石市における
強度行動障害のある方の現状

暮らしの場・暮らし方の選択について

社会福祉法人明桜会
強度行動障害者グループホーム事業推進チーム

社会福祉法人
明桜会

目次

明石市における強度行動障害のある方の現状

01　強度行動障害とは 03

02　強度行動障害のある方を取り巻く状況 07

03　明石市における障害者の暮らしの場の現状 09

04　強度行動障害のある方のグループホームニーズ 16

05　強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題 21

06　ご家族・支援者の想い 29

社会福祉法人
明桜会

01 | 強度行動障害とは

01 強度行動障害とは

自傷行為
本人の生命と健康を損ねる行動

例

自分を
叩く

異食
行動

急に
飛び出す

直接的他害行為
周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動

例

他人を
叩く

物を
破壊する

奇声を
あげる

２つの行動が**通常考えられない頻度と形式で出現し**
継続的に配慮された支援や環境が必要になっている状態

01 強度行動障害とは

現在の障害福祉の仕組みにおける
強度行動障害の支援対象者

決定方法	「障害者支援認定区分」の行動関連項目において **10**点以上（最大24点）※次項参照
対象者数	全国で **68,906** 人　※2021年(令和3年)10月時点

（参考資料）障害者支援認定区分の行動関連項目

行動関連項目	0点			1点	2点	(参考) 認定調査等項目
コミュニケーション	1．日常生活に支障がない			2．特定の者であればコミュニケーションできる 3．会話以外の方法でコミュニケーションできる	4．独自の方法でコミュニケーションできる 5．コミュニケーションできない	3－3
説明理解	1．理解できる			2．理解できない	3．理解できているか判断できない	3－4
大声・奇声を出す	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－7
異食行動	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－16
多動・行動停止	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－19
不安定な行動	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－20
自らを傷つける行為	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－21
他人を傷つける行為	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－22
不適切な行為	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－23
突発的な行動	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－24
過食・反すう等	1．支援が不要	2．希に支援が必要	3．月に1回以上の支援が必要	4．週に1回以上の支援が必要	5．ほぼ毎日（週5日以上の）支援が必要	4－25
てんかん	1．年に1回以上			2．月に1回以上	3．週に1回以上	意見書等

02 強度行動障害のある方を取り巻く状況

02 強度行動障害のある方を取り巻く状況

課題 01

障害福祉サービス
事業所の
受入体制不足

同居家族が
昼夜を問わず
対応することに

課題 02

事業所での
適切な支援や
環境調整不足

本人の状態が
さらに悪化
することも

課題 03

虐待被害や身体拘束
等を受けやすい
という実態

虐待防止や
権利擁護の
観点からも要改善

03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

明石市人口

305,861人

障害福祉サービス全支給決定者数

3,106人

療育手帳所持者数

児童 **1,360人**

成人 **2,138人**

強度行動障害関連の支援・加算対象者数

688人

行動関連項目10点以上

※数値は令和5年4月1日時点を基準とする参考値

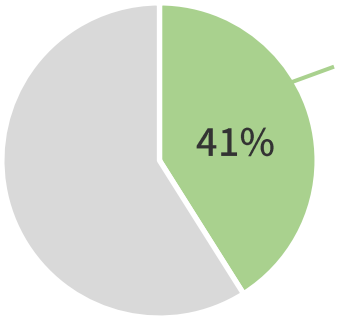
03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

成人期における暮らしの場に関するサービス支給決定者数

※数値は令和5年4月1日時点を基準とする参考値

施設入所支援

229人

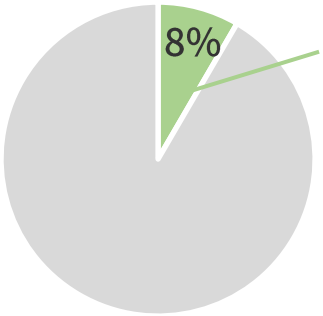


強度行動障害
支援対象

94人

グループホーム

250人



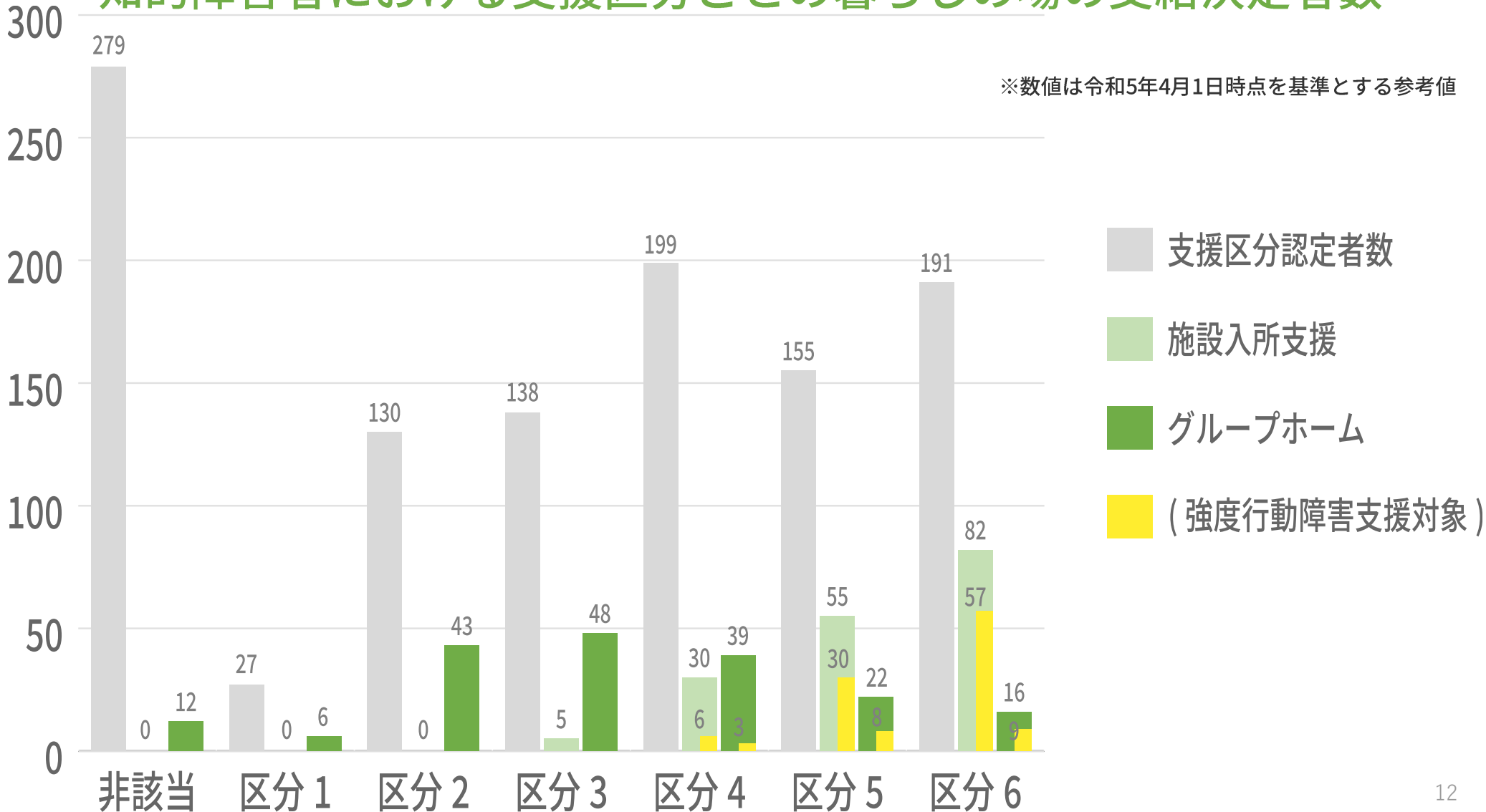
強度行動障害
支援対象

21人

03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

知的障害者における支援区分ごとの暮らしの場の支給決定者数

※数値は令和5年4月1日時点を基準とする参考値



03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

知的障害者の暮らしの場に関する資源の状況

	箇所数	定員	空床
施設入所支援	1	40	×
共同生活住居	53	274	○
短期入所	4	16	○

※数値は令和5年4月1日時点を基準とする参考値

03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

市内グループホーム事業者が入居者に求める自立度とは

※明石市地域自立支援協議会くらし部会グループホーム実態調査（令和3年度）

- 家事以外身辺自立している事
- 自傷や他害がない事
- 共同生活のルールが守れる事
- お小遣い程度の金銭管理ができる事
- 職員の促しで服薬が出来る事
- 見守りで移動可能である事

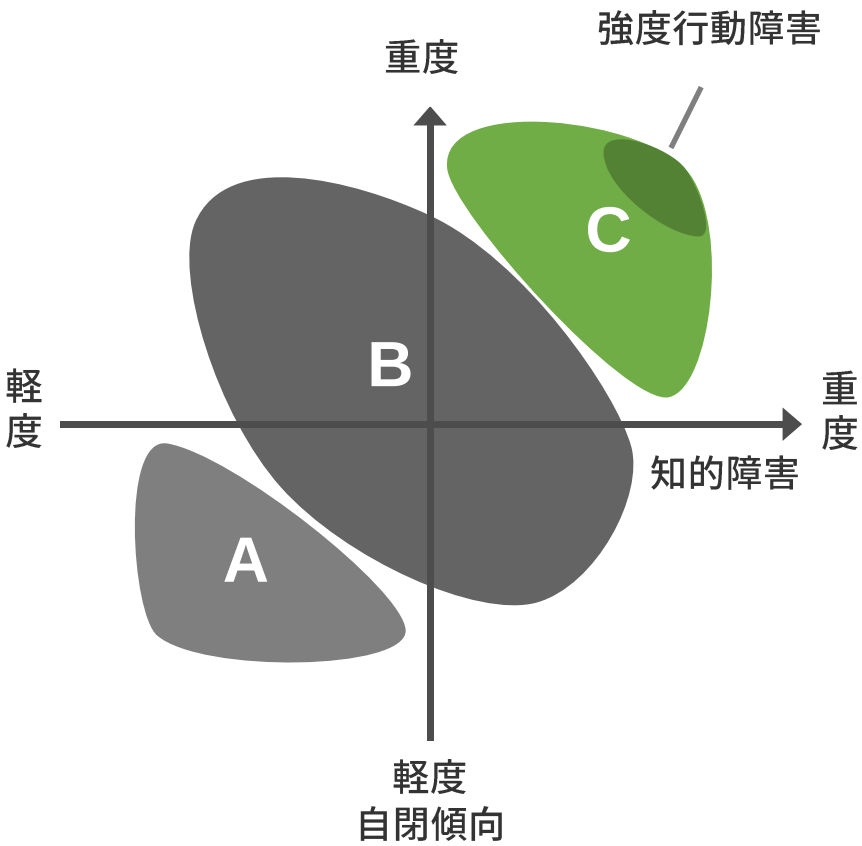
このように、強度行動障害を有する方がグループホームの利用を希望しても
受け入れ可能なグループホームはほぼないという実態

現状は受け入れ困難である事を意味している結果に

03 明石市における障害者の暮らしの場の現状

障害程度別 現状イメージと今後の課題

A	現状	在宅 or グループホーム 空床有　利用可
	課題	利用者の確保
B	現状	在宅 or グループホーム or 入所施設 空床有　一部利用可
	課題	世話人の確保
C	現状	在宅 or 入所施設 or 精神科病院 空床無　ほぼ利用不可 グループホームは実質対象外
	課題	専門人材の確保・育成、財源の確保



04 強度行動障害のある方のグループホームニーズ

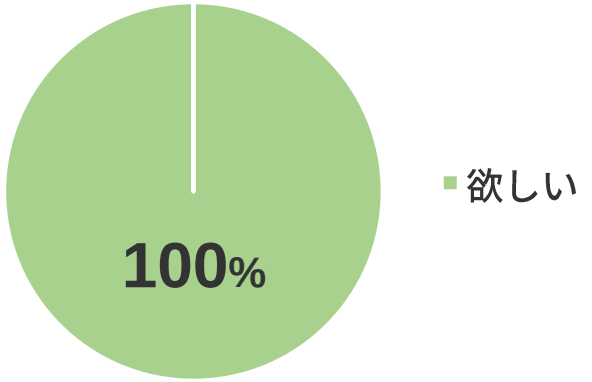
04 強度行動障害のある方のグループホームニーズ

「重度障害・強度行動障害を有する方の暮らしに関するアンケート」より

令和3年12月 社会福祉法人明桜会ご利用者（知的障害者348名）を対象に実施：回答者102名（回収率29%）

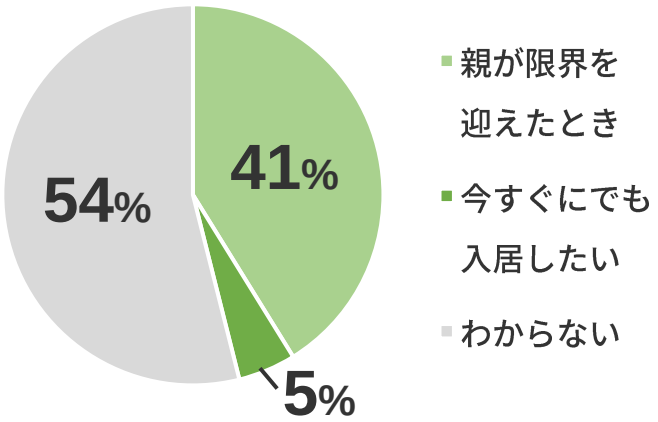
Q

重度障害・強度行動障害に特化したグループホームは欲しいですか？



Q

入居を考えるタイミングはいつですか？



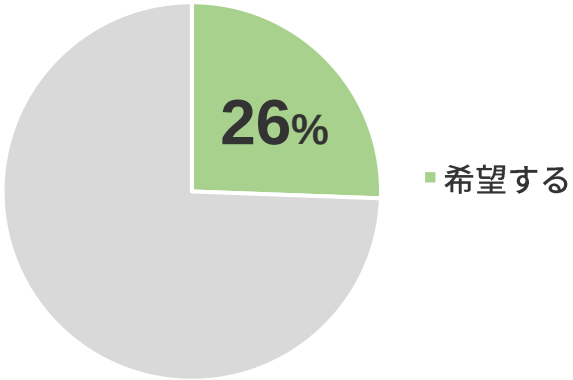
04 強度行動障害のある方のグループホームニーズ

「重度障害・強度行動障害を有する方のグループホーム入居希望（男性枠）」より

令和5年3月 社会福祉法人明桜会男性ご利用者215名

Q

グループホームへの入居を希望しますか？



Q

入居を希望する主たる理由は？

- この先入居出来るグループホームが出来ないと思ったから
- 家族に対する他害、本人の自傷、睡眠の乱れやこだわりなどの対応に家族が疲弊しているから
- 入所施設でも普通のグループホームでも断られたから
- 家族が高齢で遠方にある施設やグループホームまで面会に行けないから

04 強度行動障害のある方のグループホームニーズ

当法人における、
重度障害・強度行動障害を有する方のグループホーム入居希望者

約**3.9**人に**1**人

市内療育手帳所持者数に置き換えると相当数の社会資源が必要なことがうかがえる

市内のグループホームに
空床がある

≠

需要と供給の
バランスが取れている

04 強度行動障害のある方のグループホームニーズ

このままの現状が継続された場合に想定される課題

自宅・賃貸	✓ 高齢化により家族間の介護力の限界に至る方が急増する。 ✓ 生活支援を担うホームヘルパーの不足等により支援体制が構築できず自宅や賃貸での地域生活が成り立たなくなる人が急増する。
障害者支援施設	✓ 入所施設待機者が急増する。 ✓ 入所者の内訳として、高齢化が進み介護が必要な重度高齢障害者と強度行動障害者に二極化される。 ✓ 在宅で処遇困難となった障害者の短期入所利用の長期化が常態化し、本来の短期入所ニーズに対応出来なくなる。
グループホーム	✓ 在宅で生活が成り立たなくなった方の利用希望が急増するが、重度障害・強度行動障害を有する方の暮らしの場・暮らし方の選択肢は広がらない。

05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

障害者
支援施設

障害者支援施設の現状

1999年（平成11年）知的障害者入所更生施設「大地の家」開所 ：定員50名

ご利用者の地域移行（個室化）に向けた取り組みを実施し、現在定員40名

入所施設（集団生活）での課題

繰り返す自傷による縫合、異食による開腹手術や爪剥がし等。失明に至ることも

強度行動障害者にとって入所施設は暮らしの場として重要な選択肢であるため、今後もその対応は継続していく必要がある反面、大人数での集団生活を営む事が前提となる入所施設で、その個別特性に応じた環境と個別支援の提供がどこまで可能かという視点も求められる。

障害者
支援施設

障害者支援施設からの地域移行

平均入居者数
52人

新規入居者数
2.1人／年

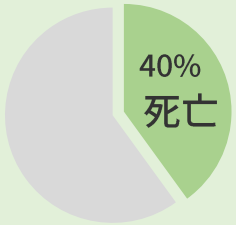
地域移行に取り組めていない施設
約**40**%

平均待機者数
20人

令和2年度障害者支援施設における地域移行の実態調査及び意思決定支援の取り組み推進のための調査研究事業
※数値は1施設あたり

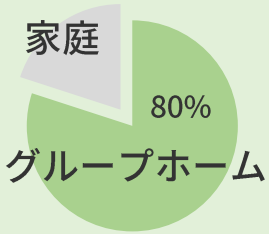
退所者数
2.4人／年

退所理由



平均地域移行者数
0.4人／年

移行先



05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

障害者
支援施設

障害者支援施設からの地域移行

地域移行者の
約５倍の人数が
新規入所者に

地域の中で安心安全な
暮らしが担保されず、
入所施設にそれを
求めざる得ない

第7期障害者計画において、障害者支援施設から地域移行を進める事が改めて明確に目標値として示されている。ただ、この数値目標達成のためには、地域移行者の受け皿となる場・入所待機者が増えないための社会資源の開発が必要不可欠となる。

05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

在宅

在宅支援アプローチ

メリット

人刺激が少なく、住み慣れた環境で自分のペースで生活が送れる

デメリット・課題

住宅確保

賃貸契約の拒否・
契約行為の困難さ
年金内での生活

環境調整

防音・防水機能等
建物の強度など

単身生活が成り立つサービス支給量の確保

それらを支援する人員確保

05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

グループホーム

グループホーム支援アプローチ

メリット

グループホーム内部の構造化を図る事により、
強度行動障害を引き起こす要因を環境調整で最小限に留められる

具体的には

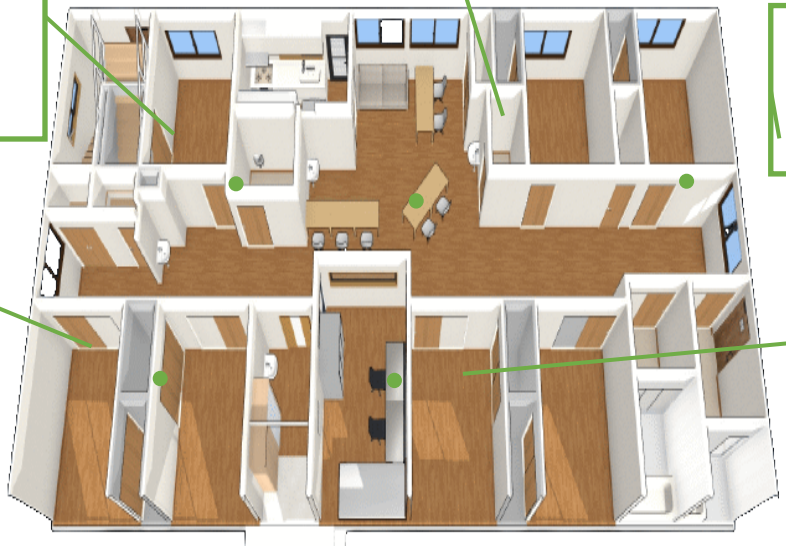
ジャンプ、壁叩き、頭突きなどの行動に耐えられる床、壁、建具の構造・家具の強度

入居者同士の生活動線が重なりにくい間取りとゆとりのある空間

奇声、大声が他の入居者や近隣への刺激になりにくい遮音、防音性能

入居者の行動が他者への刺激になりにくいパーソナルスペースの確保

パニック症状や兆候をスタッフが早期に発見し対処できるレイアウト

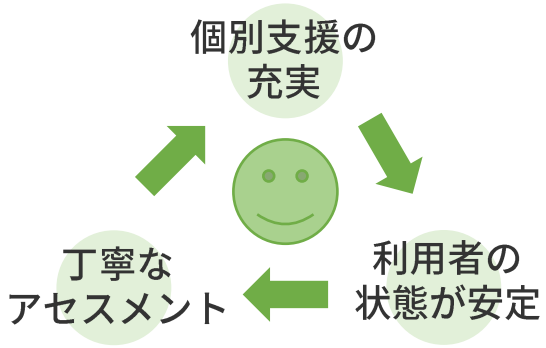


05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

グループホーム

強度行動障害者の支援において必要な7つの前提

1. 構造化された環境の中で
2. 医療（薬物療法）と連携を取りながら
3. 刺激を避けたリラックスできる状態で
4. 本人にとって分かりやすい手段を用いて
5. 一貫した対応ができる支援者が（障害特性を理解したキーパーソン）
6. 自尊心を持ち一人で出来る活動（成功体験）を増やし
7. 地域の中で継続して生活できる体制を構築する事



グループホーム支援アプローチは
明石市内の社会資源の現状や人員不足・財源等を
鑑みると現実に即した有効な施策である

05 強度行動障害のある方のこれからの暮らしと課題

グループホーム

課題・グループホームが進まない理由

敷地確保
土地価格高騰等

障害特性に配慮した
個別設計
多額な費用

人材確保と育成

近隣住民の理解

求められる役割

上記のような課題解決と併せて、強度行動障害のある方を対象としたグループホームは、機能面や支援面・人材育成も含め、明石の障害児者福祉における拠点の一つとなり、地域住民や学校・他の福祉事業所等にも幅広くその専門性を還元する事が求められる。

06 | ご家族・支援者の想い

06 ご家族・支援者の想い

安心できる環境のなかでいろんな経験を

市内生活介護事業利用中（27歳）の母

今、息子は自宅で生活をしています。両親と弟との4人暮らし。強度行動障害者に特化したグループホームへの入居を希望しています。本心では、まだまだ自宅で一緒に居たい気持ちはありますが、この機会を逃したら将来の行き場を失うかもしれない・・。「通常のグループホームの体制では対応が難しいですよ」と支援者からも言われていたし、実際私もそう思っています。だから息子が利用できるようなグループホームができることを願っています。可愛くて手放したくないというのが本音ですが。幼少期からずっとこの子が主体の生活。パニックになったり、寝なかったり、多動だったり・・。高校生の時に弟が生まれてからが一番崩れたかな。私もその頃は限界で本当にフラフラでした。息子との距離を取らないと精神状態が保てないくらい。その時は、周りの友達に助けてもらってなんとか乗り越える事が出来ました。

今は穏やかに過ごせることも多くなったけど、またいつ大きく崩れるかも分からないという不安はあります。在宅だとSOSを出せるところがないんですよね。いざパニックで大騒ぎになったり、私が急遽出かけないといけなくなった時とか・・。以前、息子がパニックになり私が怪我をしたことがあって。そんな時でも、息子を家に置いて病院行くのをためらってしまいます。そんな時に「ちょっとこの子をみててほしい！」と頼れるようなところがあれば、家族も助かるし本人も生活がしやすくなるのになあ・・と思います。

息子は、いつもは優しく表情豊かで良いところもたくさん持っています。それが、ものすごくデリケートで少しの環境の変化で不安になって崩れてしまう。だから、グループホームも息子のことをよく分かってくれるところじゃないとダメだと思うし、通所事業所にも引き続き通わせて欲しいと思っています。穏やかに過ごせることが大前提だけど、本人にとって楽なこと・守られた生活だけじゃなく、信頼できるスタッフの皆さんに助けてもらいながら、いろんな経験をして豊かな人生を送ってほしいです。

06 ご家族・支援者の想い

経験が暮らしの選択肢を増やしていく

市内生活介護事業利用中（32歳）の母

息子は小学生の頃から自傷がとっても多く、おでこをガンガン叩いたり壁に打ち付けたりして、常に怪我をしてる状態でした。みんなと同じように動かないといけない、決められた時間にこれをしなければいけないというようなルールがあの子にとっては窮屈でしんどかったんでしょうね。

学校を卒業して現在の事業所に通うようになってからは、息子のペースに合わせて活動ができるようになって自傷もなくなってきました。それでも苦手な人や苦手な場面はあって、強い拒否を示して通所ができない期間というのもありました。

そんな息子が、私たち（両親）が居なくなった後、どこでどうやって生活をしていくのか。それを考えた時に、私は入所施設しかないと思っていました。鍵のかからない場所だと勝手に出ていくし、自由に動き回れる環境は私が心配・・・というような理由でグループホームは無理だろうって。

我が子の幸せはもちろん考えるんだけど、自由はある程度制限されているほうが安全で親としては安心だと思ってたんです。だけど、入所施設は一向に空かないのが現状。本当に将来の暮らしの場をどうしようかなと思っていました。

そんな中で考えが変わったのはショートステイの経験でした。これは大きかったですね。ショートステイで問題なく過ごせたことが、グループホームでも大丈夫かもしれないという選択肢を増やしてくれました。

親が居るうちにグループホームに移行をさせたいと考え、2年前から6人定員のグループホームで生活をしています。親の思い込みって大きくて「うちの子はこう！あれができない！私がしてあげないといけない！」というのが少なからずある。だけど、実際はそれが全てではなくて、生活場面が変わると思いもよらなかった発見があったりもするし、環境が整っていれば落ち着いて過ごすこともできる。もっとリアルにグループホームでの生活を体験できる場や機会があれば、本人・親にとってもいいですよね。息子には、今後もストレスのない環境で楽しく生活してもらえたらというのが私たち親の願いです。

06 ご家族・支援者の想い

さらに本人に合った環境で安心できる暮らしを求めて

市内障害者支援施設利用中（39歳）の母

息子が施設に入所して13年目になります。自宅にいた頃は、夜間はほとんど眠らずでした。2時間程寝たら起きてきてドライブに連れて行って欲しいと要求するんです。毎日毎日明け方まで息子と2人でドライブしていました。早朝5時頃になってようやく車の中でウトウト・・そこから家に帰って、本人は車に乗せたまま私はご飯の支度。入眠導入剤も全く効かなかったですね。ただ、私が我慢する分にはいいんだけど、家の中でもゴンゴンと壁に頭を打ち付けるので、近所の方から苦情を言われることもありました。

そんな状況をみて、同居していた三男から「入所施設という選択肢もあるのでは」と言われました。私は自分が元気なうちは家でみようと思っていたけど、やっぱり限界にきていたんですよね。通所先の事業所に相談して、入所施設の空きが出たタイミングでなんとか現在の施設に入所出来ることが決まりました。嬉しいという気持ちも勿論あったけど、その時はまだ本人は26歳で若かった。ほんとにこれでいいのか・・という葛藤は正直ありました。

だけど、引き続き通所先にも通えるということで安心できたかな。「行ってきます」「ただいま」のメリハリのある生活が送れるのは大きいですよね。今は週に2日お弁当を作って持って行ってるんです。体重が減ってしまって…その時に通所先のスタッフから日中の様子なんかを聞けたりするのも親としては嬉しいですね。

息子と離れて暮らしているけど、親として関われる部分は持っておきたいなと思っています。 そして、本人にとって更によりよい環境で安心できる暮らしを求めて、強度行動障害に特化したグループホームの入居を希望しています。

本人の特性に合わせた個別化された空間が提供されるのは親としては安心。だけど、私たち親が居なくなった後のお金の心配はやっぱりありますね。財産のことで揉めないように遺言書は書いておかないといけないとか、成年後見人制度のこと、預貯金のこと、何にいくらかかるかなど、お金に関する話は色々と聞いておきたい。情報を得る場所が分からないからつい後回しになってしまいますが、自分の終活も含めて大事な事なのでしっかり考えていかないといけないなと思っています。

06 ご家族・支援者の想い

困った人ではなく困っている状態にある人

生活支援員10年目

「強度行動障害」と聞いて、皆さんはどのようなイメージを持たれますか？

「激しく頭を壁にぶつける」「周囲の人を叩いてしまう」「何でも口に入れてしまう」など。。。普段から強度行動障害のある人たちと関わっている人ならまだしも、強度行動障害のある人と接する機会がない方にとっては、全く想像がつかなかったり、あるいは必要以上に大変な人・怖い人というイメージが先行してしまうかもしれません。

障害のある人を支援していると、予期せぬことからご本人の行動に様々な課題が現れることがあります。そのようなとき、私たち支援者はつい「困った人」と認識してしまいます。その課題行動が激しく、周囲の人にケガを負わせてしまうような場面であればなおさらです。「困った人」をどうにか止めないといけないと思い、制止したり宥めたり悪戦苦闘する事もあります。

しかし、誰よりも困っているのは本人です。好んでそのような行動をする人は居ません。私たちの働きかけや置かれている環境に対して本人が「困っている」からそのような行動が現れるのです。課題的行動が現れている人は「困った人」ではなく「困っている人」だという事をまず知っていただきたいと思います。

まだまだ福祉現場においてはその事が十分に理解されているとは言えない現状があると思います。私たちの支援がうまくいかず課題行動が増幅し、行動を制止したり個別隔離すること自体が虐待行為・不適切支援にあたると言われることもあります。

このような背景の中、都道府県等が主体となり各地で強度行動障害支援者研修等が進められています。障害特性を理解する視点、アプローチの手法などを正しく理解し行動上の課題に根気よく対峙してく事が支援者である私たちに求められているのだと思います。一筋縄ではいかない事も多々ありますが、専門職であることを忘れず、明石地域において障害のある人たちが地域で安心して暮らせるためにこれからも試行錯誤していきたいと思います。

06 ご家族・支援者の想い：抜粋

安心できる環境のなかでいろんな経験を

市内生活介護事業利用中（27歳）の母

息子のことをよく分かってくれるところじゃないとダメだと思うし、通所事業所にも引き続き通わせて欲しいと思っています。穏やかに過ごせることが大前提だけど、本人にとって楽なこと・守られた生活だけじゃなく、信頼できるスタッフの皆さんに助けてもらいながら、いろんな経験をして豊かな人生を送ってほしいです。

経験が暮らしの選択肢を増やしていく

市内生活介護事業利用中（32歳）の母

自由はある程度制限されているほうが安全で親としては安心だと思ってたんです。だけど、入所施設は一向に空かないのが現状。そんな中で考えが変わったのはショートステイの経験でした。ショートステイで問題なく過ごせたことが、グループホームでも大丈夫かもしれないという選択肢を増やしてくれました。

さらに本人に合った環境で安心できる暮らしを求めて

市内障害者支援施設利用中（39歳）の母

息子と離れて暮らしているけど、親として関われる部分は持っておきたいなと思っています。 そして、本人にとって更によりよい環境で安心できる暮らしを求めて、強度行動障害に特化したグループホームの入居を希望しています。本人の特性に合わせた個別化された空間が提供されるのは親としては安心。

困った人ではなく困っている状態にある人

生活支援員10年目

誰よりも困っているのは本人です。好んでそのような行動をする人は居ません。私たちの働きかけや置かれている環境に対して本人が「困っている」からそのような行動が現れるのです。課題的行動が現れている人は「困った人」ではなく「困っている人」だという事をまず知っていただきたいと思います。

社会福祉法人明桜会

強度行動障害者グループホーム事業推進チーム

令和5年（2023年）8月

ともに歩む・明日をつくる

社会福祉法人
明桜会